

教育目標		心豊かでいきいきと生活する子ども						
重点目標		1 一人一人に応じた環境を構成し、個性を生かす保育をすすめる。 3 健やかな心と体づくりを進める。		2 友だちと共に伸びようとする仲間づくりを進める。 4 家庭・地域社会との連携を図り、地域に開かれた幼稚園づくりに取り組む。				
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
確かな学力の向上	自ら学び自ら考える力の育成	・自分で感じ、考え、行動できる子どもの育成に努める。	・学級経営目標を年度当初に明確に設定し、環境に自ら積極的にかかわり、自分で感じ、考える力の育成に取り組む。 ・研究テーマ「自分の思いを表現する力の育成～心を動かす体験を通して～」に基づいて保育を展開する。	・園での教育活動により力の育成ができたという評価を80%以上にする。 ・毎月1回実践事例を出し合い、自分の思いを表現する力を育成するための教師の援助について考える。	B	・「園が保護者の願いに答えている」という項目についての評価が98%であった。教育内容についての理解が深まっている。 ・実践事例を出し合い保育を振り返ることで、評価からの実践につなげていくことができるようになる。	・保護者と共に教育を考え、推進していく連携の形をこれからも大切にしていく。 ・職員会議や研修会等を通してより質の高い教育が提供できるようにしていく。	伊丹幼稚園の特性でもある自分で考えて行動すること(時間、物、人すべてを自分で選ぶ)を大切にした教育は自己肯定感にもつながり、とても良い。先生方の支援があってこそその子どもの成長であると感じる。
	直接体験を通して子どもが心を動かす保育の推進	・園の特色でもあるピオトープなどの園庭の自然物を取り入れた保育を工夫する。	・月に1回ピオトープ研修会を実施する。 ・蝶の幼虫を孵す、やごを羽化させるなど、保育室で生き物の飼育する機会を増やしていく。	・ピオトープ研修会を月1回実施する。 ・自然を取り入れた教育についての評価を90%以上にする。	A	・月1回のピオトープ研究会を継続して行うことができた。 ・アンケート結果では98%で達成できた。	・園の特色であるピオトープを活用した教育活動をさらに計画的に展開していく。	ピオトープでの体験は命の尊さ、大切さを知る上でとても良い。来年度は4歳児や保護者に対しての観察会等を実施していく。また、食物の生育に携わることで命を感じ、苦手な物でも食べようという意識につながっていく。
豊かな心・健やかな体の育成	子どもの健やかな体づくり	・体力向上に視点をあてた保健活動を充実させていく。	・体力向上員等の専門的な講師の方に来ていただき、運動遊びを通しての体力向上に努める。 ・保健の話や研修会の実施等とおして啓発を進めていく。	・体力向上員を年間3回、外部からの専門の方を年間3回ずつ来ていただき、運動遊びを楽しむ機会をつくる。 ・健康カレンダーの随時配布、保健の話や月1回実施、保護者・子どもの啓発コーナーを設置する。 ・運動遊びの講師招聘講習会を年2回実施する。	A	・計画的に健やかな体づくりを進めることができ、評価も100%であった。専門的に運動遊びを教えていただく機会を通して、体力向上につながった。 ・運動遊びを取り入れた健康カレンダーや講師を招聘した運動遊び講習会等を新たに実施したことで保護者の意識の向上につながった。	・子どもも保護者も運動に楽しく取り組み意識が高まり、体力向上へと結びつく講習会などの実施を工夫していく。	運動遊びは楽しみながら体力向上につながるのでも今後も積極的に実施していくといい。女性教諭が多い現場では、外部の講師の力や父親の力を活用されたことはよいきっかけになり、運動能力向上につながると感じた。
	特別支援教育の推進・充実	・職員全員での共通理解のもとに個別指導計画の作成、実践、評価を進めていく。 ・特別支援に視点をあてた保護者研修会を実施し、インクルーシブ教育を進めていく。	・指導計画についての話し合いを進め、全職員での共通理解を深めていく。 ・特別支援教育に視点を当てた懇談会を実施し、保護者啓発を進めていく。	・特別支援教育についての話し合いを月2回実施し、個別指導計画に基づいた指導を実践していく。 ・特別支援教育に視点を当てた懇談会を年10回実施していく。	B	・特別支援教育の推進については、園内の意識向上を進めることができた。 ・自尊感情についてのアンケートにおいては98%の評価であった。	・個々の理解に基づいた特別支援教育の推進をさらに図っていく。	特別支援教諭が各園に配置されていることを保護者に説明することが必要である。みんなで助け合って悩みを打ち明け合って育ち合うことが大切である。にこにこタイムの活用を望む。
	人権教育の推進・充実	・保護者啓発を行う。 ・自尊感情の育成に取り組む。	・人権についての意識を高める機会をつくり、保護者・幼児に啓発を進めていく。 ・人権教材「ほほえみ」「いたみっこおやくそくカード」などを活用し、自尊感情の育成に努めていく。	・人権を視点とした学級懇談会や啓発プリントを発行する ・バーステートークを毎月行い、保護者の人権意識を高めていく。	B	・人権を大切にした保育について、保護者啓発を進めていくことができた。 ・保護者への人権に視点をあてた懇談会を実施する。	・自尊感情を視点にした教育の推進を今後も進めていく。	子ども達が助け合ったり一緒に出来ることを楽しんでいる様子が見られるので、他者を認め更に自らを認めることができるのだろう。人権講習会等の実施を今後も続けて欲しい。
教師の教育力の向上	教職員研修の充実・人材の育成	・質の高い教育活動が行えるように個々の教師の力を育成する。	・質の高い教育活動に向けて、幼児理解を基盤とした保育のあり方についての話し合い、研究保育、共同研究などを進めていく。 ・教師それぞれが自己目標を設定し、個々の課題に向かって取り組む。	・保育計画・幼児理解についての話し合いを週1回実施する。 ・研究保育を学期に1回・共同研究園との交流を年間3回実施する。	B	・よりよい教育の推進について意識を持つことができた。 ・園全体の教育の向上について意識を持ち、教師同士もかわり合って育つ場を意図的につくっていくことが課題である。	・教師の教育力の向上については教育委員会指定研究発表会に向けて、さらに進めていく。 ・共同研究会を通してお互いに学び合う場を意図的につくっていく。	研究発表会や共同研究会に向けての保育実践が教師の指導力や保育の充実につながることを期待する。 幼保の交流等で教師同士がお互いの良いところを吸収し合うといいのではないかと。

開かれた・信頼される園づくり	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理体制の整備を進める。</li> <li>・安全指導を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理体制として、避難訓練や不審者対応・交通マナーを身につけるなどの指導を定期的実施していく。</li> <li>・降園指導や交通安全教室などを実施し、意識を高めていく。流行性疾患などの情報を伝え、早期予防を啓発していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練、防災訓練、交通指導などの安全指導を月1回は実施する。</li> <li>・流行性の疾患については保護者に直接伝えていくことで、予防が家庭でも進められるようにする。</li> <li>・園の教育や情報等で安全意識が高まった評価が80%以上になった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理については、危機管理体制の整備を進め、職員、子ども、保護者がそれぞれに訓練などを通して意識できるようになった。今後も計画的に進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理についての意識を今後も計画的に高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3学期には震災のことも教育活動に取り入れていた。子ども達は安全の大切さを感じることができたと思う。</li> <li>危機に備えて、各種訓練や安全指導を今後も計画的に進めていきたい。</li> </ul>
	学校園情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の内容を保護者や地域に発信していく機会をつくり、教育に対する理解を進めていく。</li> <li>・ビデオ等を活用した懇談会や幼稚園だよりやクラスだよりなどを定期的に発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園での教育内容を視覚を通して伝える機会を年間5回実施する。</li> <li>・幼稚園の教育内容や家庭教育の啓発につながるたより等を月1回発行する。</li> <li>・HPの更新を月10回実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校園情報の積極的な発信に取り組みHPについては、月10回程度更新できた。</li> <li>・ビデオ等を活用した懇談会を充実し計画的に行うようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの更新については、月10回実施を目標に進めていく。</li> <li>・園の教育内容を理解し保護者と連携して教育活動が推進できるように情報発信にさらに取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は様々な方法や機会を工夫し、保護者や地域に情報発信が来ている。HPの更新もこまめにされていて、とてもよかった。保育内容や意図を明確に伝えることがより幼稚園教育の理解につながる。ビデオ等の活用は子どもの様子を伝えるのに良い方法であり続けていくといい。</li> </ul>
	保護者の関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内行事を通して子どもへのかかわりの機会を設定し、子育ての楽しさを共感し連携を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAが参加しているサークル活動の組織を活用し、園や子どもへのかかわりの機会を意図的に作っていく。</li> <li>・おやじの会を年間4回計画的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生会の出し物を保護者が毎月実施し、子どもへかかわる機会をつくる。</li> <li>・おやじの会やサークルの活動が子ども達の生活につながるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士の関係は良好で評価も高かった。</li> <li>・おやじの会についての賛同は97%あったので、今後も継続して実施していくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士の関係づくりについては、サークル活動やおやじの会等の活動を通してさらに深まるように内容を工夫していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的にPTA活動に参加している保護者が多く、幼稚園と保護者、保護者同士のいい関係が構築されている証である。特に父親の保育参加である「おやじの会」は意義深い。内容等を工夫して継続していただきたい。またPTAの負担が大きくならないようにオープンな活動にして知ってもらうことも大切である。</li> </ul>
	子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て講演会を実施する。</li> <li>・地域への情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育推進員の先生を招聘した保護者を対象にした子育て講演会を実施する。</li> <li>・未就園児を対象とした会を年間10回実施する。園庭開放、みんなのひろばなどの機会を活かして園の教育を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援としての啓発プリントや講演会を実施し、アンケートにおいて80%以上の数値をあげる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援についての評価は高かった。さらに内容を充実し、園が子育て支援のセンター的役割を担うことができるように取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児対象の会の内容を検討し、確実な実施に結び付けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内にある「むっくむっくルーム」との連携を密にして子育て支援の場になっていくことを望む。幼稚園がどんな場所かを知ってもらったり、保護者同士が関係を持ったりする機会をつくってみてはどうか。</li> </ul>
業組織改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園務分掌を責任をもって遂行し、業務改善への意識をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園務日程を計画的に立て、職員会議の設定を明確にする。</li> <li>・園務分掌上の仕事にそれぞれが責任を持って取り組む。</li> <li>・ノー残業デーについての意識を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率のいい業務についての意識を高め、それぞれが責任感を持って園運営にかかわっていくことができるようになる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善は進まなかった。今後も時間を有効に使い、園務分掌の遂行については、責任感を持って取り組むように進めていかなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間短縮の工夫をさらに進め、効率のいい業務執行ができるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の環境からとても改善した。保護者と共に、PTA役員、先生方の時間を惜しまないご尽力があったからだと思う。無駄のない時間運用が必要である。職員間の意思疎通や協力体制をより強化し効率のよい業務改善に努めて欲しい。</li> </ul>	

学校関係者評価総括  
子ども達は様々な体験から幼稚園で生き活きと生活している様子が伺える。また、保育の意図や目的、子どもの様子等を積極的に保護者に伝えていることから、保護者との良好な信頼関係が築かれている。とてもよい雰囲気幼稚園なので今後も健やかな親子の育ちを育む場として、先生達が力を合わせて保育に取り組んでいって欲しい。

次年度に向けた重点的な改善点  
○子どもの健やかな成長の為に、幼稚園、保護者、地域が連携して教育活動に向かうことができるような幼稚園運営を目指す。  
○今年度新たに実施した「ビデオを活用した幼稚園教育についての情報発信の会」や取り組みを映像等で伝える為に発信する月10回を目指したHPの更新、「未就園児の会」等の取り組みをさらに進めていくことと、園の特色でもある、「おやじの会」や「ピオトープ研修」等の活動の充実を図る。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った